

# vivo

水戸芸術館音楽紙[ヴィーヴォ]

## 12&1

DECEMBER/JANUARY  
2008

### CONTENTS

ニュー・イヤー・コンサート 2009	1
クリスマス・プレゼント・コンサート 2008	2
モーツァルト: ピアノ・ソナタ全曲演奏会【第3回】	3
ちょっとお昼にクラシック 8	4
アートタワーみとスターライトファンタジー 第13回クリスマス・コンサート	4
水戸の街に響け! 300人の〈第九〉	4
SELF PORTRAIT 中村佳代、井上 修	5
速報: 小澤征爾 MCO 音楽顧問・文化勲章を受章!	6
最近の公演から	6~7
インフォメーション	8



ニュー・イヤー・コンサート2008より

## うたに満たされた新年に、平和への祈りを込めて。

### ● 1/5 (月) ニュー・イヤー・コンサート 2009 — うたの翼に —

水戸芸術館専属楽団のメンバーと、豪華ゲストでお届けする、水戸芸術館コンサートホールATMからの音楽の年賀状、「ニュー・イヤー・コンサート」。早いもので、2009年のコンサートで、19回目を迎えます。19年といえば、人間で言えば成人間近。これだけの長さになんて、水戸芸術館をご支援いただき、ニュー・イヤー・コンサートを楽しみに足を運び続けて下さっている皆様に、私たちは感謝の思いでいっぱいです。

さて、2009年の水戸芸術館ニュー・イヤー・コンサート、今回のサブ・タイトルは「うたの翼に」。ここ3年のニュー・イヤー・コンサートは、2006年が「星」(サブ・タイトルは「Stars play stars」)、2007年が「花」(同「世界に、いくつもの花。」、2008年が「女性」(同「音楽の女神に捧ぐ」)をそれぞれテーマにしてきましたが、今回は「うた」がテーマです。太古、人間が人間として生きた時代から、生にまつわる喜怒哀楽の思いをこめた「うた」は、時代や国によって違いはありますが、常に人間と共にあり続けてきました。そのような、「音楽の原点」である「うた」の力を、もう一度たしかめてみよう、というのが今回の演奏会のテーマです。未来に向けて不穏さや不安を感じることが多いこの世の中、うたの翼と共に平和な新年が訪れることを、祈りたいと思います。

さて、いつものことながら、内容は当日発表となりますので、残念ながらもまだここではお話しすることができません。皆様からいただく恒例の「大吉リクエスト」

の集計結果ももとの、鋭意検討中と申し上げておきましょう。「うたの翼に」というタイトルから、来年生誕200年を迎える「あの作曲家」を想像されている方もいらっしゃるかもしれませんね。

では、出演者をご紹介します。ヴァイオリンは、水戸室内管弦楽団(MCO)やATMアンサンブルでおなじみ、久保陽子、久保田 巧、小林美恵、田中直子、中村静香、沼田園子、堀 伝、松原勝也の面々。前回久々に登場し、クライスラーの〈ラ・ヒターナ〉を熱く奏でた松原勝也が今年も出演します。また、田中直子は2年ぶりの登場。ヴィオラはMCOの川本嘉子、店村眞積の不動の二人。チェロはMCOの堀 了介、久しぶりの登場となる秋津智承。近年、J.S.バッハ〈無伴奏チェロ組曲〉のディスクを発表するなど一段と充実した活動を展開している秋津智承が、活動の拠点である広島からこのコンサートのために駆けつけてくれます。コントラバスは、水戸芸術館ニュー・イヤー・コンサート初登場となる山本 修。とはいえ、MCO定期演奏会にしばしばゲストとして登場しているので、ご存知の方も多いでしょう。東京都交響楽団の首席を務め、ソロに室内楽に活躍中の名手の初登場に、期待大です。管楽器は、フルートの工藤重典とトランペットの杉山峯夫というMCOメンバーの2人。工藤重典は2年ぶりの登場となります。ピアノは、『モーツァルト:ピアノ・ソナタ全曲演奏会』が大好評で迎えられている作曲家・ピアニストの野平一郎。水戸芸術館ニュー・イ

ヤー・コンサートではさまざまな演奏者との共演で大活躍の野平一郎ですが、〈エリーゼのために〉〈愛の夢 第3番〉〈乙女の祈り〉など、あっと驚く有名ピアノ曲を毎年演奏するのもお楽しみです。そして、前回のニュー・イヤー・コンサートにおけるヘンデル〈ハーブ協奏曲〉の名演の記憶も新しい、ハーブの吉野直子が前回に続いて登場するのも嬉しいニュースです。

そして、このところニュー・イヤー・コンサートには欠かせない「歌の女神」には、前回に続いてメゾ・ソプラノの林 美智子が登場! 前半、ドイツ・リートをしっかりと聴かせたかと思えば〈カルメン〉の「ハバネラ」では舞台を降り客席を闊歩しての大熱演。満場の聴衆を魅了し、「またぜひ出演してほしい!」という熱烈なラヴ・コールに応えての再登場です。今年発表した武満 徹の歌曲集アルバム『地球はマルイゼ ~武満 徹:SONGS~』が絶賛の嵐に包まれている林 美智子、花盛りの美声で「うた」の魅力をたっぷり伝えてくれるに違いありません。そしてこの他にも、出演者は増えるかもしれません…。また、司会が誰になるかも、お楽しみに。なお、今回のニュー・イヤー・コンサートも、NHK茨城県域デジタル放送で生中継されます。

2009年の新年を、「うた」で満たすこのコンサート、お聴き逃しなく!  
《矢澤》



クリスマス・プレゼント・コンサート 2007 より

## 聖なる夜に、奇跡のように美しい音楽を、祈りとともに捧げます。

● 12/23(火・祝) クリスマス・プレゼント・コンサート 2008

畑中良輔氏の楽しいお話とともに、毎年、多彩な出演者とプログラムでお贈りする、水戸芸術館のクリスマス・プレゼント・コンサート。今年は、心温まる7つのステージを聖なる夜に捧げます。

### 1. ヘンデルの〈メサイア〉より

ヘンデルのオラトリオの中でも最も有名な作品が〈メサイア〉です。1750年のロンドンでの初演の際には、臨席していたジョージ2世が第2部の最後の「ハレルヤ・コーラス」を聴いて感動のあまり立ち上がり、聴衆もそれに倣ったことから、今日でもその部分で起立する習慣となったという有名なエピソードがあります。今回は、2時間を超えるこの壮大なオラトリオの中から、畑中氏が選び抜いた珠玉のソプラノとテノールのアリア4曲(〈谷はすべて身を起こし〉、〈娘シオンよ、大いに喜べ〉、〈お前は鉄の杖で〉、〈わたしは知っている、わたしをあがなう方は生きておられ〉)が取り上げられます。

出演は、小泉恵子さん(ソプラノ)と藤井雄介さん(テノール)。小泉恵さんは、1990年の水戸芸術館「茨城の名手・名歌手たち 第1回」出演、および、第1回奏楽堂日本歌曲コンクール第1位という実績を皮切りに、国内はもとより国際的にも活動を行う、茨城出身の名ソプラノです。藤井雄介さんは現在、東京芸術大学大学院音楽研究科博士課程に在籍し、2005年からは鈴木雅明氏が音楽監督を務める「バッハ・コレギウム・ジャパン」での活動も行っている新進の歌手です。またピアノの伴奏を務めるのは、当コンサートでも馴染みの谷池重紬子さんです。

### 2. 女声合唱と重唱による 金子みすゞの世界

第2ステージは、〈めだかの学校〉をはじめ数多くの童謡や歌曲を書いた作曲家・中田喜直が、金子みすゞの詩に曲をつけた女声合唱曲集〈ほしとたんば〉をご紹介します。金子みすゞの詩は、最近では小学校の国語の教科書にも掲載されています。日頃からその詩の世界に共感を寄せている方もきっと沢山いらっしゃるのではないのでしょうか。「すずと、小鳥と、それからわたし、/みんなちがって、みんないい。『わたしと小鳥とすずと』」など、9つの心温まる詩が、清らかに歌いあげられます。

出演は、声楽のスペシャリストから成る茨城の女声合唱の名門・野ばら会です。指揮は中澤敏子さん、ピアノ伴奏は小沼富美枝さんです。

### 3. メシアン生誕100年のクリスマスに

第二次世界大戦後の前衛音楽の大きな潮流の先駆けとなった20世紀を代表する作曲家のひとりがメシアンです。今年はメシアン生誕100年というメモリアル・イヤーにあたり、ヨーロッパを中心に世界各地で、この作曲家を特集する演奏会が開催されました。彼の創作の根底にはカトリックの深い信仰があり、神を讃える多くの作品を生み出しています。今回取り上げるのは、メシアン作品の頂点のひとつであると言われているピアノ曲〈幼子イエスに注ぐ20のまなざし〉からの2曲です。神秘的で色彩豊かなメシアンの傑作をご鑑賞ください。

ピアノを演奏するのは、メシアンに作曲を師事し、さらにメシアン夫人のイヴォヌヌ・ロリオにピアノを学んだ、藤井一興さんです。

### 4. クリスマス・プレゼント・コーナー

毎年恒例のプレゼント・コーナーです。今年はどうな景品が登場するのか? どうぞお楽しみに!!

### 5. リンボウ先生の〈あんこまパン〉自作自演

ご紹介するまでもないかもしれませんが、リンボウ先生こと林望さんは、エッセイ、小説のほか、詩集、能評論、自動車評論、料理など多数の著書を手がけていらっしゃる文筆家です。近年は歌曲の詩作活動にも力を注いでいて、中でも大きな人気を博しているのが今回ご紹介する〈あんこまパン〉です。「あんこまパン」というのは、あんことマヨネーズを具にしたパンのことです。この曲を聴けば「あんこまパン」の作り方をマスターすることができます。さてさてお味は? コンサートを聴いた後、お家に帰って、ぜひ作って召し上がってみてください!! また、リンボウ先生は、文筆活動ばかりではなく、美声の持ち主で、バリトン歌手として、イギリスの古典曲や民謡、日本の叙情歌、自作詩による歌曲の独唱、重唱をレパートリーに、全国でコンサート活動も展開しています。今回はリンボウ先生の自作自演のステージを皆様にお贈りします。

### 6. フランス語で聴く〈六つの子供の歌〉

中田喜直の歌曲の出発点とされる作品が〈六つの子供の歌〉です。西條八十「うばぐるま」、小川未明「鳥」、竹久夢二「風の子供」、山村暮鳥「たあんきぼーんき」、野口雨情「ねむの木」、三木露風「おやすみ」という6つの詩に付曲した歌曲集です。実は、この歌曲集は、20世紀の優れた日本歌曲として、国内はもちろん、詩が英語やフランス語に訳されてヨーロッパでも歌われるようになりました。今回は、フランス語による版をお聴きいただけます。第1ステージに引き続いて、小泉恵子さんのソプラノでお楽しみください。

### 7. キャロルに寄せて贈る08年のクリスマス

最後のステージは、大勢の人たちが声をひとつに合わせる合唱曲のステージです。まずはモーツァルトのモテット〈アヴェ・ヴェルム・コルプス K.618〉。モーツァルトがこの世を去る半年前に作曲された、彼の数多い教会音楽における最後の完成作品であり、崇高な雰囲気をもたえています。続いて、シューベルトの〈詩篇 第23番 “主は羊飼ひ” 作品132〉。シューベルトならではの流麗で叙情的なメロディを持つ作品です。そしてマスカーニの〈アヴェ・マリア〉。彼の出世作となった歌劇〈カヴァレリア・ルスティカーナ〉の中の美しい間奏曲に出てくる旋律に由来する歌曲です。演奏会の最後は、クリスマスの夜に祈りを捧げつつ、アダムの〈オー・ホーリー・ナイト〉が歌われます。

第2ステージに登場した野ばら会に加え、水戸葵女声合唱団と水戸うらら女声合唱団の3団体の合同演奏となります。指揮は中澤敏子さん、ピアノ伴奏は田中直子さんです。

終演後にはエントランスホールにて、第7ステージ出演の合同合唱団によるキャロリングを予定しています。伴奏はパイプオルガンが受け持ちます。東京芸術大学オルガン科4年の福本茉莉さんが演奏します。

聖なる夜に、奇蹟のように美しい音楽を、どうぞご堪能ください。 《中村》



【第2回】(2008年3月28日)の演奏会より

## 野平一郎さんからの寄稿掲載！ 2年目に突入のモーツァルト企画！

### ● 1/23(金)、3/6(金) モーツァルト：ピアノ・ソナタ全曲演奏会 第3回・第4回

現代を代表するピアニスト、作曲家である野平一郎さんをお迎えして、前年度からスタートした「モーツァルト：ピアノ・ソナタ全曲演奏会」。1月に〈第1回〉、3月に〈第2回〉を行い、おかげさまで大好評をいただきました。「次はいつやるのですか？」というありがたいお問い合わせもたくさん頂戴していました。大変お待たせいたしました。来年の1月23日に〈第3回〉を、3月6日に〈第4回〉を開催します。

あるレパトリーのすべてを、生で、良い演奏で聴けるチャンスは、実はそうあるものではありません。野平さんの洗練された演奏でモーツァルトのソナタ全曲を聴けるこの企画は、その意味でも、聴き逃せないものと言っていいでしょう。また、この企画では、演奏の合間に野平さんによる「お話」が入ります。作曲当時のモーツァルトの状況、歴史的背景、作曲上の特徴などがわかりやすく解説されるため、1曲1曲がより深く、聴く人の身体に沁み込んでいくことでしょう。

今度の〈第3回〉と〈第4回〉における聴きどころやアプローチについて、野平さんからメッセージが届きました。どうぞご覧いただき、楽しみに演奏会をお待ちください。

《関根》

K.330)と〈第11番 K.331〉、そして〈幻想曲 二短調 K.397〉を取り上げます。前年度取り上げたザルツブルグ時代の作品では未だ色濃く残っていた、当時のピアノ(というか鍵盤楽器)の可能性の枠内で作られているという感じが全く払拭され、ここには完全に楽器の制約から自由になったモーツァルトがいます。発想は楽器を超え、より自由になり、感情の表現のひだが、さらに微細になって行く様子がうかがえます。それだけにピアニストには、モーツァルトの創造力について行けるだけの「想像力」が要求されてしまうのが難しいところ。〈第10番〉も、モーツァルトがコロコロ笑いながら作曲しているような、くったくのない両端楽章に、いきなり真ん中の楽章での感情表現の深さが要求されます。終楽章にトルコ行進曲を持つ、ソナタの中で一番有名な〈第11番〉も、実は意外にまとめるのが大変な曲。美しい6つの変奏曲(第1楽章)、宮廷を想像させる優雅なメヌエット(第2楽章)、そしてシンバルと大太鼓が売りのオスマントルコ軍楽隊を模した行進曲(第3楽章)と、モーツァルトの張ったさまざまな異なる表現の罫を超えて、どうしたら一貫性のあるソナタに仕上げるのが出来るのでしょうか。

さらにこの回では、東 誠三さんをお招きして、四手連弾のための作品も聴いていただきたいと思います。モーツァルトは、このジャンルにもいっぱい傑作を残しました。残念ながらこのシリーズでは、〈変奏曲 K.501〉と〈ソナタ K.497〉を一曲ずつ演奏するのみですが、何れも素晴らしい作品です。一般的に四手連弾は、客席からは一見楽しそうに見えますが、しかし意外に弾くのが難しいのです。舞台上では、左の奏者の右手と右の奏者の左手が絶えずぶつかり合い、鍵盤を奪い合うようにして進行するのが普通なのですが、その点モーツァルトはとても巧緻。より小さかったときは姉のナンネルと、大きくなってからは弟子のピアニストとずいぶんと実践してきているので、この難問も簡単にクリアしています。

続いて、〈第4回〉(3月6日)は、ソナタ〈第12番 K.332〉から〈第14番 K.457〉へといたる作品群です。さらにソナタ以外の素晴らしい作品も聴いていただきたく、〈グルックの主題による変奏曲 K.455〉や〈ロンド 二長調 K.485〉、そしてソナタ〈第14番

とよくペアで演奏される〈幻想曲 K.475〉がプログラムに並んでいます。何れもめまいがしそうなほど(!)充実し、多彩な作品です。モーツァルトのソナタはこの時代、19世紀に入って交響曲を持つことになる大きな構成感を次第に獲得して行きます。さて皆さんは、この〈グルックの主題による変奏曲〉をチャイコフスキーが管弦楽のために編曲したのはご存知でしょうか。チャイコフスキーがモーツァルトに注いだ個人的な愛情はともかくとしても、それほど、この頃の作品が管弦楽のようなパレットを持っていることの証左でもあります。さらに二長調の〈ロンド〉は、オペラの一場面でしょう。そしてプログラムの最後に置かれたソナタ〈第14番〉は、モーツァルトに続くベートーヴェンにとっての「運命の」調性で書かれ、もう10年後に迫った次世代の作曲家の激しい表現を十分に予感させるものがあります。

モーツァルトのように、聴衆にも専門家にも同じように愛され続けた作曲家、そしてその作品。ご多分に漏れずわたしも小さい頃から、そんなモーツァルトを愛し、大尊敬してきました。ウィーンに渡った当初、モーツァルトは自作自演のために書いたあるピアノ協奏曲のために、父親に手紙で次のように書いています。「ここには聴衆を楽しませるためのパッセージが、いっぱい詰まっています。しかし専門家を唸らせるパッセージも、少し入っているのです。」何とも心憎い言葉です。しかし、そうした聴衆が要求するものを敏感に肌で感じ、それと自らの芸術家的使命とを作品の中にうまく配分できていたはずのモーツァルトでしたが、ウィーン時代の後半に進むに従って、その心情は次第に変化して行きます。それは第3年度の〈第5回〉と〈第6回〉に乞うご期待！

昨年から、秋になると、この新年そうそうやってくる水戸芸術館のシリーズのために、モーツァルト漬けになります。わたしにとって何と楽しい期間でしょう。今でしか感じられない、そんなモーツァルトを今回もお届けできたらと一生懸命準備に励んでいるところです。それでは、また皆さまと水戸芸術館でお会いするのを楽しみにしています。

#### シリーズ 2年目を迎えるにあたって

##### 野平一郎

水戸芸術館の「モーツァルト：ピアノ・ソナタ全曲演奏会」も、いよいよ第2年度になります。モーツァルトの鍵盤楽器のために書かれた作品を、ソナタを中心に年代順に探っていく3年にわたるシリーズの2年目、モーツァルトは故郷のザルツブルグを発って、やっと音楽の都ウィーンに定住して、自分の音楽で勝負していく決心をします。1781年、25歳の時のことですが、残念ながらこの後、モーツァルトには10年の生涯しか残されていないことになります。ザルツブルグに居を構えながら、ヨーロッパ各地を訪れていた時代に比べて、格段に芸術家としての腕を磨き、さらに前人未到の深淵を覗き見ていくことになります。シリーズ第2年度は、こんなモーツァルトのウィーン時代の前半の諸作品にアプローチして行きます。

〈第3回〉(1月23日)では、ピアノ・ソナタ〈第10番



デイヴィッド・ヘルツォーク



写真左; 第12回クリスマス・コンサートより



写真右; 水戸の街に響け!300人の〈第九〉2007より

## デイヴィッド・ヘルツォークと5人の演奏家たちによるブラス・アンサンブル。

### ● 1/30(金) ちよっとお昼にクラシック 8 — 金管ファミリー大集合! —

「ちよっとお昼にクラシック」のシリーズは、平日の午後1時に開催する1時間のコンサートです。クラシック音楽にはあまり馴染みの無い方々でも気軽に楽しみたいだけける親しみやすいプログラムと破格の料金! 一方で、クラシック音楽を深く愛する方々にもご満足いただける第一級の演奏家たちの出演! —この両方を兼ね備えることで、大きな好評をいただいております。

今回は「金管ファミリー大集合」というタイトルで、ホルン、トランペット、トロンボーン、チューバという4種類の金管楽器、そしてピアノによる演奏をお楽しみいただけます。出演は、水戸芸術館専属楽団・水戸室内管弦楽団(MCO)の音楽顧問である小澤征爾氏もその実力を認め、ここ数年はエキストラとしてMCOの第1トランペット奏者の席に座っているデイヴィッド・ヘルツォークさん。そして、彼が厚い信頼を置く5人の演奏家たちが登場します。ホルンの竹村淳司さんは、東京交響楽団の首席奏者。トランペットの市川和彦さんは、新日本フィルハーモニー交響楽団に在籍。トロンボーンの栗田雅勝さんは、NHK交響楽団の首席奏者。チューバ

の佐藤和彦さんは、新日本フィルハーモニー交響楽団の首席奏者です。また、ピアノの沢田千秋さんは、ソロ活動に加え、ヘルツォークさん他と共に「東京アーツトリオ」として室内楽の演奏なども行っている方です。

プログラムは、各楽器の独奏曲から金管五重奏曲まで、多彩な編成でお届けします。まずは金管五重奏で、颯爽たるプロコフィエフの歌劇〈三つのオレンジへの恋 作品33〉から行進曲、そして皆様よくご存知の名旋律ドビュッシーの〈亜麻色の髪の乙女〉で演奏会はスタートします。この後は独奏曲が中心になっていきます。トランペットの独奏曲は、アメリカのブルースの旋律を用いたガーシュウインの〈3つの前奏曲〉の第2番です。ホルンの独奏曲は、ロシア・ロマン派の伝統を受け継いだ作曲家グリエールの〈ホルンとピアノのためのロマンス 作品35の6〉。続いてトランペットの二重奏で、結婚式のBGMなどでも用いられることのある壮麗なクラークの〈トランペット・ヴァランタリー〉。トロンボーンの独奏曲は、自身がトロンボーン奏者でもあったアメリカの作曲家フィルモアの〈シャウティン・ライザ・トロンボーン〉です。

独奏曲コーナーの最後はチューバで、J.S. バッハの〈フランス組曲 第6番 BWV817〉の第5曲・ポロネーズに基づく主題とその変奏からなるスティーブンスの〈古いスタイルによる変奏曲〉です。そして演奏会の掉尾を飾るのは、再び金管五重奏の編成で、シベリウスの〈序曲 へ短調〉です。荘厳なコラール風の旋律で始まり、軽快な行進曲に移っていく作品です。

1ドリンク付きで1,200円!! 託児サービスもご用意しておりますので、小さなお子様もどうぞお越しください。さらに、館内レストラン「ヴェールブランシェ」のご協力、チケットをお持ちの方は\*月\*日から\*月\*日まで、同レストランのランチもしくはディナーに10%の割引価格でご優待します。是非、こちらをご利用ください。《中村》\*託児サービスをご希望の方は、1月9日(金)までに水戸芸術館音楽部門・担当: 中村、中崎宛てにお電話ください(TEL:029-227-8118)。定員20名・料金500円 定員になり次第、締切らせていただきます。お申し込みはお早めどうぞ!!

## アートタワーみとスターライトファンタジー

### ● 12/6(土) 第13回 クリスマス・コンサート [市内小中学校 芸術館コンサート]

水戸芸術館のタワーや建物、さらに水戸駅前などをライトアップする冬の風物詩「アートタワーみとスターライトファンタジー」。その関連企画として、水戸市内の小・中学生が日頃の音楽活動の成果を披露する「クリスマス・コンサート」を今年も開催します。今回は20校、25団体、およそ900人の子供たちが参加予定で、金管合奏、吹

奏楽、器楽、合唱、などの演奏が披露されます。入場無料の催しです。ご来場をお待ちしております。《中村》[参加校]【午前の部】千波中(ミュージックベル)、石川中(舞楽)、茨城大学附属中(合唱)、第一中(器楽)、双葉台中(器楽)、第五中(ビッグバンド)、見川中(吹奏楽)、千波中(吹奏楽)、双葉台中(吹奏楽)、石川中(吹

奏楽)、常澄中(吹奏楽)、第五中(吹奏楽)、第四中(吹奏楽)【午後の部】五軒小(合唱)、茨城大学附属小(合唱)、柳河小(器楽)、上中妻小(金管合奏)、吉沢小(金管合奏)、酒門小(金管合奏)、渡里小(金管合奏)、堀原小(金管合奏)、双葉台小(金管合奏)、五軒小(吹奏楽)、常磐小(吹奏楽)、三の丸小(吹奏楽)

## 師走の水戸の風物詩となった、300人の大合唱による〈第九〉

### ● 12/14(日) 水戸の街に響け! 300人の〈第九〉

1999年、2000年、そして2003年からは毎年開催し、今年で8回目の開催となる「水戸の街に響け! 300人の〈第九〉」。師走の水戸の風物詩として、ますます市民の皆様の間に定着してきました。

“喜びにみちた調べにともに声を合わせよう”と呼びかけるシラーの頌歌「歓喜に寄す」をテキストに、人類の理想的なあり方が高らかに歌われるベートーヴェンの〈第九〉。暗いニュースばかり耳にする昨今、ベートーヴェンの音楽は、私たちが人間らしく生きていく上で、ま

すます切実に響くものになってきました。

その〈第九〉を歌って街に元気を与えようと、一般公募、茨城県合唱連盟、水戸市合唱連盟を合わせて300名を超えるコーラス参加者が集まりました。9月から練習に励んでいます。サラリーマンや主婦、音楽好きの高校生、定年後のご夫婦など、様々な人たちが参加者に名を連ねるこの合唱団は、プロの合唱団とは一味違い、その参加者層の厚みもたらす歌声の奥深さと充実感で、ベートーヴェンの音楽に挑みます。

独唱には、「茨城の名手・名歌手たち」出身者を中心に、結城滋子(ソプラノ)、大木 円(アルト)、倉石 真(テノール)、清水良一(バリトン)といった実力派歌手たちが出演。またオーケストラ・パートは2台のエレクトーン(小林由佳、久保田彩子)、2台のピアノ(中村真由美、中村佳代/ヴァーグナー編曲によるピアノ版を演奏)、ティンパニ(尾花章子)が務めます。300人の大合唱に拮抗し、ともに音楽を盛り上げる独唱と器楽にも、どうぞご注目ください。《関根》



写真左；中村佳代  
写真右；井上 修

## SELF

## PORTRAIT

モーツァルトからメシアンまで。  
多彩な魅力にあふれたピアノ音楽をどうぞ。

### ■ 12/7(日) 中村佳代 ピアノ・リサイタル

水戸芸術館では、これまで姉とのピアノデュオリサイタルや、クリスマス・プレゼント・コンサート等で出演しましたが、今回初めてのソロリサイタルということで、当日ステージに立つ自分をイメージしながら、それぞれの作品をどのように表現しようかと日々考えています。

今回のプログラムは、モーツァルトからメシアンまで幅広い時代の作曲家の作品から選びました。ま

ず始めにモーツァルトの最後のピアノソナタとなるK.576。次はショパンの作品より、その生涯で50曲以上残したと言われているマズルカの中から、3曲それぞれがきらびやかな個性を放つ作品59と、スケルツォ全4曲の中で最も親しまれている作品31を演奏します。続いてドビュッシーの作品を取り上げますが、東洋、スペイン、フランスから題材を取った〈版画〉は、フランス印象主義的なピアノ技法が確立されたと言われる作品です。ドビュッシーの旋法的な調性に縛られない独自の音楽語法は、後半に演奏するメシアンにも多大な影響を与えたとされています。

後半は、メシアンの〈幼児イエスに注ぐ20のまなざし〉(抜粋)です。独自の音楽語法を作り上げたメシアンの作品を初めて弾いたのは学生時代ですが、楽譜を追って弾いていくうちに、旋法の組み合わせ、逆行不可能なリズム、鳥の歌声などが織りなす彼の音楽に引き込まれました。その後、芸術館で毎年開催

されるクリスマス・プレゼント・コンサートで演奏を依頼され、2002年から5年に渡りメシアンの作品を演奏し、改めてメシアンの世界を表現する魅力を感じました。メシアンは鳥類学者でもあり、様々な鳥の歌声を採譜して、曲に取り入れるという独特の手法を多用したり、「音を聴くとその音に対応した色が見える」という特殊な体質を持っていたため、その響きは彼独自の色彩感覚で鮮やかに彩られています。

今年はメシアン生誕100年ということで、様々な形でメシアン作品の演奏会が開かれています。私もこの記念すべき年にリサイタルを開く喜びを胸に、それぞれの作品に心を込めて演奏したいと思います。

中村佳代

ロシアへの愛を込めて。  
秘曲と名曲でつづる厳寒の国の抒情。

### ■ 1/25(日) 井上 修 ピアノ・リサイタル

前回に続き2度目のリサイタルを、また水戸芸術館で行うことができる幸運に、感慨極まりない気持ちもさる事ながら、選曲には色々悩みました。というのは、前回は自分がリサイタルを開くことが出来るのなら是非挑戦したかったショパンのバラードと、僕の好きな作曲家の一人であるスクリャービンの作品を中心に取上げたのですが、その後多くの方々から、もっと馴染みのある曲を聴いてみたかったなどの感想をいただいたからです。それはそれで嬉しい事ですし、期待に沿えればという気持ちもあったのですが、それと同時にそれらを優先することで、自分が求めていきたい方向性とのギャップや、自分が得意(と言える程では無いのですが…)とするものと違った作品も取り上げていかな

ければならない現実に直面してしまいました…。

本来リサイタルとは一体何だろう?? たとえ自分が苦手であっても、来て頂いた皆さんと共感できる親しみ深い曲を取り入れて演奏すべきなのか、それとも自分の音楽観で作上げたプログラムを聴いていただく場なのか? 今でもその答えは出ません。が、まだまだ若造の僕にとって数多く残された作品に埋もれてしまった音楽を探し求めていきたい、そしてそのような音楽を楽しんで頂ける機会を作りたい、そんな思いが優先してしまいました。しかしピアノを勉強している方々、また愛好家の皆さんに、こんな曲も演奏してみたい、この作曲家の他の作品も聴いてみたい、少しでもそう思っていただけなら、これ以上幸せな事はないのかも知れません。

そんな訳で今回はオール・ロシアン・ミュージックです!! ロシア音楽の創始者とも言うべきグリンカ、その流れを受け継いだ国民楽派と呼ばれる作曲家の中でおそらく最もマイナーな一人であろうキュイ、その流れと逆に西欧音楽を取り入れていったチャイコフスキーの流れをくんだラフマニノフ、そんな流れに我関せず独自の道を行ってしまったスクリャービン、様々な角度から、一言で「ロシア音楽」と言われてしまっている作品にアプローチできたら!!! な～んて言っ

たものの… なかなか願望の枠を超える事は出来な

いみたいです。所詮夢?? いいえ、努力はします!!  
グリンカの最後にはよく知られている曲を主題にした変奏曲を演奏いたします。何の曲かは当日って事で! キュイは僕自身聴いた事の無い作品で、楽譜だけのアプローチに「録音の無かった時代はこんなだろうか?」と想像しながら取り組んでいます。スクリャービンは相変わらず訳の分からない、イッチャテいる音楽かもしれませんが、彼の作品の中ではかなり有名で、まとも? な曲だと思います。ラフマニノフの前奏曲は僕なりに、とある冬から次の冬への1年を僕の勝手な発想で抜粋し並べてみました。どんな発想かって?? そんなの恥ずかしくて文章に出来る訳がありません!!!

なんだか何の参考にもならない説明でしたが、僕が愛してやまないロシア(スラブ民族)音楽の一端を微力ながら紹介できればという思いで取り組んでおります。興味を持っていただけた方、是非1月25日水戸芸術館でお会いしましょう。

井上 修



小澤征爾 音楽顧問

小澤征爾・水戸室内管弦楽団音楽顧問、文化勲章を受章。

2008年度の秋の褒章で、水戸室内管弦楽団(MCO)音楽顧問の小澤征爾さんが、文化勲章受章者に選ばれました。水戸芸術館の関係者としては、森 英恵理事長(1996年)、吉田秀和館長(2006年)に続く3人目の受章となります。

小澤征爾さんは、1990年のMCO創立以来、音楽顧問を務め、2度にわたるヨーロッパ公演と6枚のCDなどを通じて、MCOを日本を代表する世界的室内管弦楽団と評価されるまでに育て上げました。私たちは、小澤音楽顧問の文化勲章受章を心からお祝い申し上げます。

10月27日(月)には、東京で小澤音楽顧問の文化勲章受章の記者会見(写真)が行われました。全国紙の記者や音

楽関係者が多数駆けつけた中、小澤顧問は受章の喜びをにこやかに語り、これまで齋藤秀雄、カラヤン、バーンスタインらすばらしい師にめぐりあってきたことを感謝と共に語り、また指揮者は一人では何もできず「音楽仲間」たちの存在がとても大事だ、と語りました。挙げられた「音楽仲間」の中に、MCOの名があったことは言うまでもありません。

小澤音楽顧問は、その記者会見の席上で、今後もますますMCOの活動に力を注いでいくことを確約してくださいました。来年4月に予定されるMCO第75回定期演奏会で、お元気な姿に水戸で接することが、できるはずです。これからも、小澤音楽顧問そしてMCOへの、皆様のますますのご支援を、心よりお願い申し上げます。

## 『水戸室内管弦楽団と巡るヨーロッパ音楽紀行』

### 発刊のお知らせ

MCO第3回ヨーロッパ公演は、小澤征爾音楽顧問が急病のため、指揮者なしで敢行されました。その模様をドキュメンタリータッチでとらえた“音楽の旅人”の本、『水戸室内管弦楽団と巡るヨーロッパ音楽紀行』が音楽之友社から発刊されます(定価1,500円/12月中旬発刊予定)。さまざまな困難と障害を乗り越えて大成功をおさめ、“MCOここにあり”とヨーロッパで称えられた音楽的成果、訪れた街の今日の風景、その街の歴史と音楽を、旅人の目よせて、取材班が記録したものです。

多角的な視点からとらえた、豊富な写真とレポートによる“生きた”ヨーロッパ音楽紀行として、楽しく読んでいただければと思います。

〈本の内容〉

- ・吉田秀和 水戸芸術館館長インタビュー
- ・公演ツアーレポート(文=広瀬大介)
- ・各地の新聞評
- ・各都市の「街と音楽」(文=矢澤孝樹)
- ・現地在住日本人に聞く(取材・文=藤枝智昭)
- ・ツアーを終えて(楽団員、ソリストのコメント) ほか

## 最近の公演から

SEPTEMBER  
OCTOBER



1



2



3

### 野村 誠のファミリー・ワークショップ

『いいカモ、鍵ハモ!!』(8月2、3日、9月20、21日)

作曲家で鍵盤ハーモニカ奏者の野村誠さんを講師に迎えての音楽ワークショップ。小学1年生から大人まで総勢43名の方が参加した。楽譜を一切使わないで曲作りや演奏をする「鍵ハモ・ビッグバンド」と楽譜を使って作曲、演奏をする「鍵ハモ交響楽団」の2つのチームに分かれて実施した。「鍵ハモ・ビッグバンド」で作られた曲は2曲。1つは、白鍵でスタッカート、黒鍵でのロングトーンというのをリーダーのさっかけで変化させる〈げんしじん〉。もう1つはデンマークのカール・ベルグストローエム＝ニールセンさん撮影の写真(救急車やお店に飾られた洋服などが写っている)を見ながら、音を出してみる〈さんぼみゅーじっく〉という作品だ。一方の「鍵ハモ交響楽団」は、五線紙を使いながら、音組織、メロディやリズムなどを参加者がアイデアを出しあって、それを野村さんがまとめ上げて〈トワイライト・セレナーデ〉という作品が生み出された。 〈中村〉

### P-プロット 鍵盤ハーモニカ演奏会(9月21日)

鍵盤ハーモニカ・オーケストラ、P-プロットの演奏会。メンバーは野村 誠さん、しばてつさん、林 加奈さん、吉森 信さん、鈴木 潤さんの5人。「鍵ハモで聴く20世紀前半の音楽」コーナーをはじめ、オリジナル作

品、ベートーヴェンの〈熱情ソナタ〉、コルトレーンやモリコーネ作品、レゲエのリズムにのせて『笑点』、『サザエさん』、『水戸黄門』のメドレーなどが演奏された。さらに、上記の『いいカモ、鍵ハモ!!』ワークショップの人たちの発表演奏や客席の皆さんも演奏に参加するコーナーなどもあった。 〈中村〉

アンケートから●前半のアレンジ演奏もよかったが、後半のワークショップ編が実験精神にあふれていて面白かった。鍵盤ハーモニカという小さな楽器ながら大きな可能性があるものと感じた。(水戸市:T.M.さん)●とても楽しかったです。鍵盤ハーモニカで「ここまで、できるの!!」という感じです。やさしい音で、心が和みました。(東茨城郡:M.T.さん)

### ラデク・バボラークと仲間たち(9月26日)

シリーズ「ベートーヴェンは生きている」の第2回目の公演。水戸芸術館専属楽団・水戸室内管弦楽団のメンバーであり、「ホルンの革命児」と絶賛されるラデク・バボラークが、ヤン・ヴォボジル(第2ホルン)、ロレンツ・ナストゥリカ(第1ヴァイオリン)など、信頼を寄せるヨーロッパの演奏家たちと共に行った室内楽の演奏会である。プログラムはバロック期のテレマン作品から20世紀のツェムリンスキー作品まで、ホルンと弦楽器の調和の美しい作品の数々が取り上げられた。特に印象的だったのは、聴衆の笑いを誘う



1



2



3



4



5



6



7



8

ほどの楽しい雰囲気の中で演奏されたモーツァルトの〈音楽の冗談〉、そして澁刺としたアンサンブルが大いに披露されたベートーヴェンの〈六重奏曲〉であった。アンコールはレフ・コーガンの〈シャローム・アレヘム〉と〈フライラッハ〉。 《中村》

アンケートから●バボラーク氏のホルンの音は「バターが溶けてゆくような」風味があって、とても良かったですね。ホルンが2本使われることで、「コク」も深まったように思えます(笑)。(Eさん) ●メンバーの方たちが、お互いに楽しみながら演奏している雰囲気が、とても良かった。(Y.K.さん)

### 茨城の名手・名歌手たち 第19回 (10月4日)

開館以来、毎年開催している「茨城の名手・名歌手たち」。第19回を迎えた今年は、「鍵盤楽器・弦楽器・邦楽器・邦楽アンサンブル」を対象にオーディションを行い、厳しい審査を通過した8名が本演奏会へと出演しました。今回は、オーディション応募総数51組中、ピアノでの受験が41名と多く、演奏会でも8名のうち6名(鈴木範之さん、片岡沙織さん、川口慈子さん、根本由奈さん、横山有紀子さん)がピアニストでしたが、それぞれの世界が良く表され、6人6様の演奏を愉しんでいただけたのではないのでしょうか。また、尺八でジャズを演奏するという、新しいスタイルを提案された小林 幹さんには、驚きと賞賛が寄せられました。「名手」に3度目の登場となった川又明日香さん(ヴァイオリン)の、さらに成長した姿も見られました。

また今回は、オーディション審査委員長で司会の畑中良輔氏により、演奏会の前後半に出演者のインタビューが行われました。演奏だけではなく言葉からも、演奏に対する真摯な想いが伝わったことと思います。今後の皆さんの活躍に期待しています。

《中崎》

アンケートから●皆若さが眩しい。場数をふんでこれからのコンサートひとつひとつ大切に積み重ねて欲しい。レベルが高く、よく研ぎなされておられる。(無記名の方) ●若手演奏家にとってとても意義のある会(筑西市:H.Y.さん)

### ハーゲン弦楽四重奏団演奏会(10月5日)

1997年10月以来、11年ぶりの水戸芸術館登壇となったハーゲン弦楽四重奏団。今回はオール・ベートーヴェン、しかもこの作曲家最後の完成作である〈第16番〉、〈セリオーソ〉と標題の付いた〈第11番〉、そして7楽章構成の大作である〈第14番〉という重く、シリアスな3作品が取り上げられた。ルーカス・ハーゲン(第1ヴァイオリン)、ライナー・シュミット(第2ヴァイオリン)、ヴェロニカ・ハーゲン(ヴィオラ)、クレメンス・ハーゲン(チェロ)というメンバーは、97年当時と変わらずだが、自在な表現力と緊密なアンサンブルはますます磨きがかかり、ベートーヴェンがこれらの四重奏曲に込めた、熟達しきった音楽書法と精神性の高みを十全に表現していた。アルバン・ベルク四重奏団

が解散した今、弦楽四重奏の世界を引っ張っていくのはまさにハーゲンであると知らしめてくれた演奏会。

《関根》

アンケートから●一流の弦楽四重奏団による難曲、名曲の演奏会を生で聴けて感激しました。(水戸市:N.H.さん) ●オール・ベートーヴェンではいかにも重いという印象だが、さすがに兄弟、息のあったアンサンブルで軽やかに弾き切るところはさすがというほかない。ホールの残響も良かった。(水戸市:T.M.さん) ●あらためてベートーヴェン!! これは音楽? 魂そのもの。ハーゲン、また来てください。(無記名の方) ●世界の超一流の弦の響き、乱れない一体感のあるアンサンブル。ありがとうございました。(栃木県那須烏山市:F.W.さん)

### 水戸芸術館高校生音楽講座2008 [第2期] 第4回(10月10日)

「楽器が違うと、音楽も違う?」のテーマのもと、ソフィー・イェーツのチェンバロ・リサイタルに関連づけた内容。「ピアノ以前」の楽器であるチェンバロの発展史をそのレパートリーと共に紹介。15世紀のチェンバロ音楽や、即興性に強く依拠したフレスコバルディやフランスの「プレリュード・ノン・ムジュレ」、そしてクリストフ・フォリのフォルテピアノまで、レアなレパートリーの連続に高校生は興味津津。終了後も、熱心な質問や感想が多く寄せられた。講座の詳細い内容やそれに関する話題は担当者ブログ <http://www.arttowermito.or.jp/blog/yazawa> 「高校生音楽講座2008」の項目をどうぞ。 《矢澤》

### 第34回東京芸術大学同声会茨城支部演奏会 (10月13日)

東京芸術大学音楽学部の卒業生によって組織される「同声会」の茨城支部が水戸芸術館では初めての演奏会を行った。吉永真奈さん(箏)と長須与佳さん(尺八)による邦楽(沢井忠夫:上弦の曲)、山本彩子さん(チェロ)と安田明子さん(ハープ)のデュオ(デュポール:ソナタ)、野末あけみさん、住田真理子さん(ヴァイオリン)、山田圭子さん(ヴィオラ)、城戸春子さん(チェロ)によるカルテット(メンデルスゾーン:弦楽四重奏曲第6番)、安蔵 博さん(バリトン)と中村真由美さん(ピアノ)のデュオ(ドビュッシー:ヴィヨンの3つのバラード)、青木美穂さん、濱田千枝子さん(ソプラノ)、鈴木 優さん(バリトン)、上仲典子さん(ピアノ)らによる重唱(バッハ、ヘンデルの作品)、米元えりさん(ピアノ)による独奏(ベートーヴェン:ソナタ第31番)と、盛りだくさんのプログラム。同声会茨城支部の層の厚みを感じさせる公演となった。 《関根》

アンケートから●様々なタイプの曲(編成)が聴けてよかったです。(神奈川県伊勢原市:M.D.さん) ●熱演でした!! 価格も適正でしたし、満足です。(水戸市:H.K.さん) ●これだけ質の高いプログラムを沢山聴くことができ、非常に良かったです。ありがとうございました。(さいたま市:T.S.さん)

## information

### ■チケットに関するお問い合わせ

…水戸芸術館チケット予約センター/029-231-8000  
営業時間/9:30～18:00(月曜休館)

### ■公演内容や企画に関するお問い合わせ

…水戸芸術館音楽部門/029-227-8118

### ■【ATM便り】毎月1回茨城新聞に不定期登場。

■茨城放送「タッチ・ミー・イン・ザ・モーニング」内「タッチ・ザ・クラシック」  
毎週水曜日・朝6:50頃から約10分間  
水戸周辺 1197KHz、土浦周辺 1458KHz

## チケット・インフォメーション

### 〈11月29日(土)発売分〉

#### ◎〈ちよっとお昼にクラシック8〉金管ファミリー大集合!

1/30(金)13:30開演 料金(全席指定):¥1,200(ドリンク付)  
※この演奏会では、託児サービスをご利用いただけます(定員20名)。

#### ◎平野公崇×山下洋輔×西山まりえ SAXOPHONES MEET KEYBOARDS

2/15(日)16:00開演  
料金(全席指定):A席¥3,500 B席¥3,000 ペア・チケット(A席のみ)¥7,000

#### ◎ATMアンサンブル第23回演奏会 ～小菅 優を迎えて～

3/26(木)19:00開演 料金(全席指定):A席¥3,500 B席¥3,000

#### ◎パイプオルガン“名器・名曲”探訪の旅 お話しと演奏:浅井美紀

3/30(月)13:30開演 料金(全席指定):一般¥1,200 学生(高校生以下)¥600

※ATMアンサンブル第23回演奏会には、11月26日(火)より友の会維持会員、11月27日(水)より友の会一般会員の先行電話予約がありますので、11月29日(土)の一般発売の時点で、券種によってはお客様のご希望に添えない場合があります。予めご了承ください。

### 〈11月30日(日)発売分〉

#### ◎中澤敏子 ソプラノ・リサイタル

2/22(日)14:00開演 料金(全席自由):¥3,000

#### ◎合唱セミナー2009 講師:藤井宏樹

3/15(日)10:00開始  
参加費(全席自由):一般¥1,000 高校生¥500 中学生以下¥300

#### ◎塙 美里 サクソフォン・リサイタル

3/22(日)16:30開演 料金(全席自由):[前売]¥1,500 [当日]¥2,000

## これからの演奏会・残席情報

○…残席あり(20席以上) △…残席わずか(20席未満) ×…残席なし  
中央…中央ブロック 左右…裏…左右ブロックおよびステージ裏 補助…補助席

◎中村佳代 ピアノ・リサイタル……………12/7(日)自由席○

◎クリスマス・プレゼント・コンサート2008……………12/23(火・祝)中央×、左右・裏△

◎ニュー・イヤール・コンサート2009……………1/5(月)中央×、左右・裏△

◎モーツァルト:ピアノ・ソナタ全曲演奏会……………【第3回】1/23(金)中央○、左右・裏○  
……………【第4回】3/6(金)中央○、左右・裏○

◎井上 修 ピアノ・リサイタル……………1/25(日)自由席○

※10/29(水)現在の状況です。

※公演当日に残券がある場合、開演1時間前より水戸芸術館チケットカウンターでお得な学生券を発売いたします。ご購入の際には学生証(記名章)をお持ちください。公開セミナーなど、学生券のない公演もございますので、予めお問合せ下さい。

※固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

## 水戸芸術館の主な12・1月のスケジュール

### コンサートホールATM

#### ■アートタワーみとスターライトファンタジー

第13回 クリスマスコンサート[市内小中学校 芸術館コンサート]  
12/6(土)午前の部9:40開演、午後の部14:10開演 入場無料

#### ■中村佳代 ピアノ・リサイタル

12/7(日)15:00開演 料金(全席自由):一般¥3,000 学生(大学生以下)¥1,500

#### ■水戸の街に響け! 300人の《第九》

12/14(日)12:00/13:30(2回公演) 入場無料  
会場:水戸芸術館広場(悪天候の場合、コンサートホールATM)

#### ■クリスマス・プレゼント・コンサート2008

12/23(火・祝)17:00開演 料金(全席指定):A席¥3,000 B席¥2,000

#### ■ニュー・イヤール・コンサート2009 ―うたの翼に―

1/5(月)18:00開演 料金(全席指定):S席¥5,000 A席¥4,000 B席¥3,000

#### ■水戸芸術館高校生音楽講座2008【第2期】第6回「即興 ―楽譜のかなたへ」

1/16(金)17:00～19:00 参加費:¥200

#### ■水戸市立三の丸小学校吹奏楽 関東大会出場記念コンサート

1/21(水)時間未定 入場無料

#### ■モーツァルト:ピアノ・ソナタ全曲演奏会【第3回】演奏とお話:野平一郎

1/23(金)18:30開演  
料金(全席指定):¥3,000 【第4回】(3/6)とのセット券¥4,500

#### ■井上 修 ピアノ・リサイタル

1/25(日)15:00開演 料金(全席自由):一般¥3,000 学生(大学生以下)¥1,500

#### ■〈ちよっとお昼にクラシック8〉金管ファミリー大集合!

1/30(金)13:30開演 料金(全席指定):¥1,200(ドリンク付) ※託児サービスあり

## エントランスホール

### ■パイプオルガン プロムナード・コンサート

12月:13日(土)、20日(土)

1月:17日(土)、18日(日)、24日(土)、31日(土)

〈クリスマス・スペシャル〉

12/21(日)出演:オルガン:高橋博子

開演時間:12:00/13:30(2回公演) 入場無料 ※演奏は各回20分程度です。

## ACM劇場

### ■子供たちのクリスマス(五軒幼稚園、国田幼稚園、飯富幼稚園)

12/4(木)10:00開演 入場無料

### ■シリーズ:日本の劇作家たち〈特別篇〉『北京の幽霊』

1/24(土)、1/25(日)、1/28(水)、1/30(金)、1/31(土)

2/1(日)、2/4(水)、2/7(土)、2/8(日)

水・日曜日:14:00開演 金・土曜日:19:00開演

料金(全席指定):一般¥2,500 団体(10名以上)¥2,250 学生¥1,500

## 現代美術センター

### ■日常の喜び

10/25(土)～1/18(日)9:30～18:00(入場は17:30まで)

休館日:月曜日 ただし1/12(月・祝)は開館、翌1/13(火)は休館。

年末年始休:12/27(土)～1/3(土)

料金:一般¥800 前売・団体(20名以上)¥600

中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方と付き添い1名は無料

## 茨城の主な12・1月の演奏会 ※有料公演のみ

### ◆佐川文庫 TEL/029(309)5020

■～若手ピアニストシリーズ～ 天川真奈 ピアノ・リサイタル  
12/20(土)18:00開演

### ◆常陽藝文センター TEL/029(231)6611

■藝文友の会会員優待催事 奥村 愛 ヴァイオリン・リサイタル  
12/6(土)15:00開演

■後藤晴美 フルート・リサイタル

12/23(火)15:00開演 (問)後藤 TEL/029(251)0699

■藝文友の会優待催事 藝文フレッシュコンサート チェロ:山本 徹 ピアノ:藤原百子、飯島正徳  
1/24(土)14:30開演

### ◆茨城県民文化センター TEL/029(241)1166

■クリスマス サロン コンサート ～心あたたまるフルートの音色を皆様へ～  
12/19(金)19:00開演 会場:文化センターグリール「モンマルシエ」

### ◆水戸市民会館 TEL/029(224)7521

■新ピアニスト協会 ピアノコンサート「パッパ」12/11(木)18:00開演

■茨城大学管弦楽団 第34回定期演奏会 12/20(土)14:00開演

### ◆水戸市内のその他の会場

■水戸ゾリス「クラリネットと弦楽四重奏の夕べ IV」

12/5(金)19:00開演 会場:カフェ・トロワジャンブル TEL/029(227)7487

■兼氏規雄・兼氏ちな美 エレガントステージ Vol.2「X'masコンサート」

12/13(土)18:00開演 会場:水戸プラザホテル・チャペルラピエタ  
(問)水戸プラザホテル企画室 TEL/029(305)8100

### ◆ひたちなか市文化会館 TEL/029(275)1122

■水現21 第10回演奏会

12/11(木)13:00開演 (問)水現21 実行委員会 TEL/029(251)2904

■ひたちなか市芸術祭 ひたちなか市民吹奏楽団定期演奏会

12/21(日)14:00開演 (問)ひたちなか市民吹奏楽団 TEL/080-3398-3660

※ ページの都合により、水戸市および近隣の公演のみとさせていただきます。

## 水戸芸術館音楽紙「ヴィエヴォ」 2008年12月発行 第138号

編集・発行/水戸芸術館音楽部門 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8

TEL:029-227-8118 FAX:029-227-8130

e-mail [ankmr@arttowermito.or.jp] URL [http://www.arttowermito.or.jp/]

編集/水戸芸術館音楽部門(五十音順):佐川真美 関根哲也 中崎美智代 中村 晃

矢澤孝樹(編集長)

DTP/村田征司

印刷所/株式会社あけぼの印刷社

次号は…

梅の季節に、コンサートホールも満開!